

ZERO☆初優勝、全道へ

フットサル選手権十勝予選

フットサルの第20回全十勝総合選手権大会兼第22回全日本選手権大会十勝地区予選(十勝地区サッカー協会主催)が6日、帯広市総合体育館で行われ、決勝はZERO☆がENPELASA Futsal Clubを5-2で下し、2012年のチーム創設から5年目にして初優勝を果たした。ZERO☆は、十勝地区代表で全道大会(来年1月14、15日・函館市)に出場する。(内形勝也)

▽予選リーグ
Aブロック①ZERO☆1勝1分②STとち①勝1分③帯広FC2敗
※①と②の順位は得失点差による
Bブロック①ENPELASA Futsal Club 2勝②GIANT KILLIN 1勝1敗③広尾高2敗
▽決勝トーナメント
▽準決勝

GK玉井ピンチ救う

松田の穴埋める活躍

ZERO☆は正GKの松田知浩監督代行が10月中旬に左足首を捻挫し、本来はFP(フイールドプレーヤー)の玉井竜二が、その穴を十分に埋めた。松田監督代行は「玉井が抜群のサッカーセンスでゴールをよく守ってくれた」と急造GKの活躍をたたえた。玉井は清水町出身で、清水少年団、清水中では1歳

★ZERO 4(3)02 2
GLYN TGIANKIN
ALASSE 1(0)10 1
Futsal Club
(PK5-4)

▽決勝
★ZERO 5(3)21 2
ALASSE 2
Futsal Club



【決勝・ZERO☆-ENPELASA Futsal Club】急造GKながらゴールを守り続け優勝に貢献したZERO☆の玉井竜二(右)

かちまいスポーツ

記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶0120-25-9410



太刀で攻撃する高井宏行(左)と杖で受けて打ち込む形の稽古に励む三戸部良太。鈴木清志部会長(奥)が見守る

高井・三戸部組 杖道日本一

全日本四段の部

杖道(じょうどう)の第43回全日本大会(10月16日・岡山県体育館、全日本剣道連盟主催)で、四段の部に出場した全十勝剣道連盟杖道部会(鈴木清志部会長)の高井宏行・三戸部良太組

十勝勢初の快挙

強豪との6試合勝ち抜く



全日本大会の四段の部を制した三戸部・高井組(前列中央と右端)。全十勝剣道連盟杖道部会長の鈴木部会長(前列左端)ら仲間と喜びを分かち合う

杖道(じょうどう) 2人1組の形武道。1人が太刀で攻撃し、杖を持ったもう1人がかわしてみぞおちなど相手の急所を狙う。2組の出場者が3人の審判の前で6本の演技を行って競う。3本で役割を交代し、「充実した姿勢」「正しい姿勢」「正確な打突(だつとつ)と打ち込みの強弱」などで旗判定を受ける。

49歳の高井と33歳の三戸部は2011年に二段の部、14年に三段の部で最高賞となる優秀賞を獲得(三段以下は決勝を行わず、準決勝に勝利した2組に優秀賞が与えられる)している。今年がペアを組んで初めての四段への挑戦となった。近年は毎年優勝組が変わる激戦区の同部には37組が出場。1回戦から準々決勝までの4試合はいずれも3-0の完勝。ヤマ場と踏んでいた準決勝は3年前に優勝した磯野美佐緒と居合道七段の実力者の小川内泰生組(福岡)と対戦した。2本目の「左貫」は、三戸部が出した竹刀を振り払い高井が気合を込めて攻め込んだ。3本が終わり攻守が交代。三戸部は「高井さんの調子が良く、自分は流れをつなげるだけだった。リラ

(鹿道・帯広)が優勝し、日本一に輝いた。四段の部以上で十勝勢が頂点に立つのは初めて。高井は「十勝をはじめ、練習に付き合っていたいた北海道的の方たちのおかげ」と喜びをかみしめ、鈴木部会長も「稽古はうそをつかない。素晴らしい快挙」と高く評価した。(北雅貴)

スケート あすからジャ 明治オー

スピードスケートのジャパンカップ第1戦(日本スケート連盟主催)が11日から13日まで、明治北海道十勝オーバルで行われる。シニアの一線級で活躍している羽賀亮平(日本電産サンキョー)・日大、白樺学園高、及川佑(大和ハウス工業・山梨学院大、池田高)・加藤条治(日本電産サンキョー)や藤村祥子(美奈)・日体大、白樺学園高、今季現役復帰した長



12、13日浦幌で道女子ホッケー第23回浦幌町長杯争奪東北北海道女子アイスホッケー大会(浦幌アイスホッケー連主催)が12、13日、浦幌アイスアリーナで行われる。十勝、釧路両チームが出場し、グループリースターの試合